

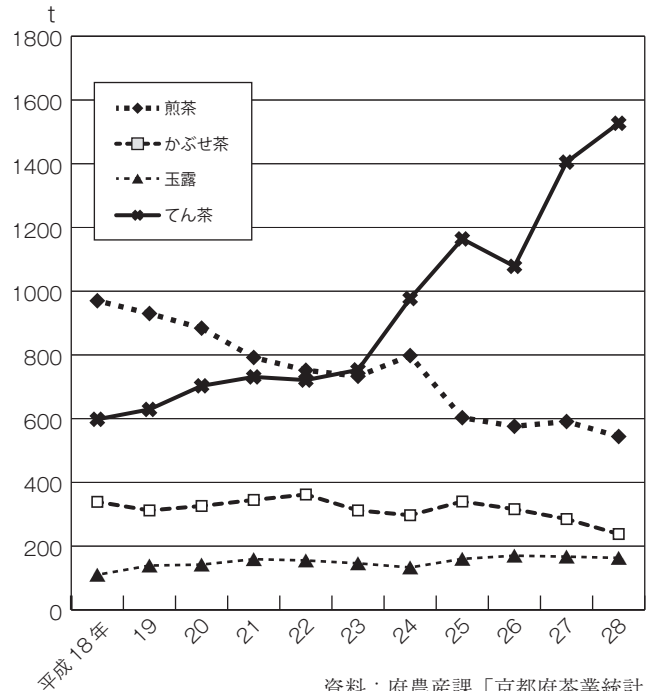
## お茶はいかがですか

京都府では平成29年4月から平成30年3月までの1年間を「お茶の京都博」と題し、京都府山城地域の12市町村で宇治茶にまつわる様々なイベントを展開しています。今回は、お茶に関する統計をみていきたいと思います。

まず、京都府内で年間どれくらいのお茶（荒茶）が生産されているかみてみましょう。

図1は、平成18年から平成28年の京都府の荒茶の茶種別生産量の推移をグラフ化したものです。平成18年には970 t生産されていた「煎茶」は平成28年には544 tと生産量が10年間で半分近くに減少しています。一方、抹茶の原料となる「てん茶」は、平成18年の598 tから平成28年には1527 tと倍以上増加しています。（図1）

図1 荒茶の茶種別生産量の推移（平成18年～平成28年）



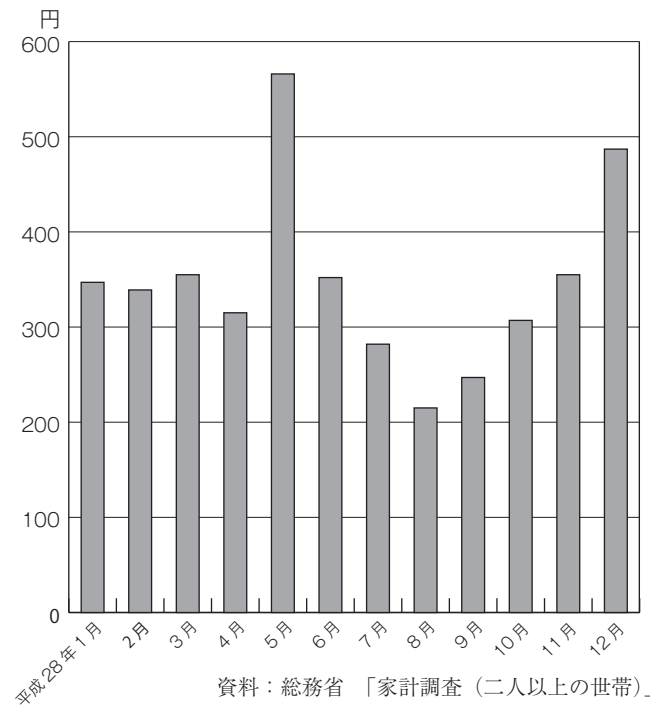
資料：府農産課「京都府茶業統計」

次に、支出についてみてみましょう。

図2は、平成28年家計調査（二人以上の世帯）より、平成28年1月から12月までの1世帯あたりの緑茶への支出額の推移を月別に表したものです。

5月の支出額が多いですね。時期的に新茶を楽しんでいる方が多いのかもしれませんが、また、9月以降、寒い時期になるにつれて、支出額は増える傾向にあります。（図2）

図2 平成28年 緑茶に対する月別支出額の推移<全国>



資料：総務省「家計調査（二人以上の世帯）」

現在、お茶は飲料としてだけでなく、スイーツや美容など色々な用途で用いられていますが、みなさんもこの機会に茶畑広がる京都府山城地域へ足を運んでいただき、お茶を楽しんでみてはいかがでしょうか。